

高等学 校

令和3年度

# 教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	4
IV	研究の方法	4
V	研究の内容	6
VI	研究の成果	16
VII	今後の課題	16

## 研究主題

# 生徒が互いのよさや可能性を発揮してよりよい人間関係を築く集団活動を行うための指導と評価の充実について

### I 研究主題設定の理由

平成30年に改訂された学習指導要領では、教育基本法、学校教育法などを踏まえ、子供たちが未来社会を切り拓くための「資質・能力」を一層確実に育成することとしている。学習指導要領が目指す教育を実現するために生徒の「資質・能力」の育成に焦点を絞り、今年度の高等学校の部会共通テーマを「これからの社会を主体的・創造的に生き抜くために必要な『資質・能力』の育成に向けた授業改善と評価の充実について」としている。

高等学校学習指導要領特別活動では、特別活動で育成すべき「資質・能力」を三つの観点から、次のように示している。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

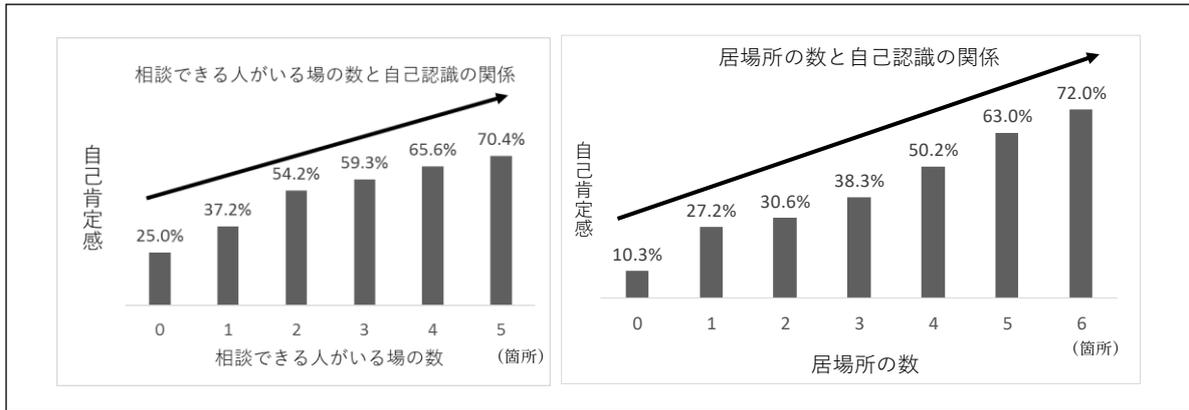
これらの「資質・能力」を育成する特別活動の授業において、本研究で課題として捉えたことが2点ある。

1点目は、指導と評価の一体化が十分に行われていないことである。学習評価について指摘されている課題として「学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童・生徒の具体的な学習改善につながっていない」、「教員が評価のための『記録』に労力を割かれて、指導に注力できない」等の課題が挙げられている。また、「先生によって観点の重みが違うんです。授業態度をとっても重視する先生もいるし、テストだけで判断するという先生もいます。そうすると、どう努力していけばよいのか本当に分かりにくいんです。」という生徒の声もあり、学習評価が資質・能力の向上に結び付いていないことが指摘されている。

2点目は、自ら主体的に課題を捉え、解決を目指して、他者と協働しながら新しい価値を生み出していくため、自己肯定感を高めるような集団活動を学校でより重点的に行う必要があるということである。高等学校学習指導要領解説特別活動編(以下「解説」という。)には、「教員は各活動・学校行事の特質を生かし、一人一人の生徒が自己有用感や自己肯定感を体得できるように指導を工夫するとともに、自分のよさや可能性を発揮してよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な活動を設定することが大切である。」と示されている。

「子供・若者の意識」(令和3年度版 子供・若者白書 内閣府令和3年6月)によると、子ども・若者は、相談できる人がいる場や自分自身が居場所と感じる場の数が多いほど、自己肯定感が高まることが分かる(【資料1】)。

【資料1】 子供・若者の意識調査（「令和3年版 子供・若者白書」内閣府3月）



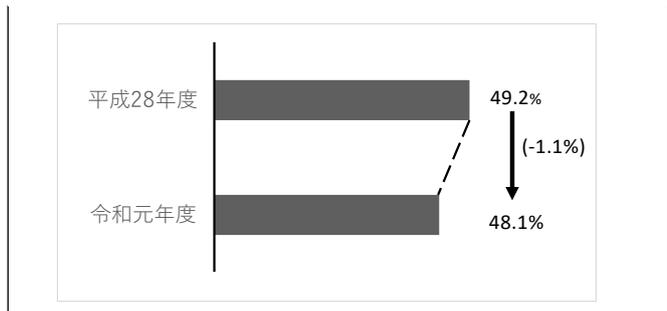
しかし、学校に対して居心地のよさを感じている若者は、令和元（平成31）年度の調査の段階では48.1パーセントと、平成28年度の調査時に比べて1.1パーセント下がっている。

【資料2】

自己肯定感を高めるためには、よりよい人間関係を築かせて学校を居心地のよい場所にするのが有効であり、特別活動において指導の更なる工夫が必要であると考えた。

以上のことを踏まえ、「生徒が互いのよさや可能性を發揮してよりよい人間関係を築く集団活動を行うための指導と評価の充実について」という主題を設定した。

【資料2】 学校がほっとできる場所、居心地がよい場所になっていると回答した子供の割合



II 研究の視点

1 生徒の実態

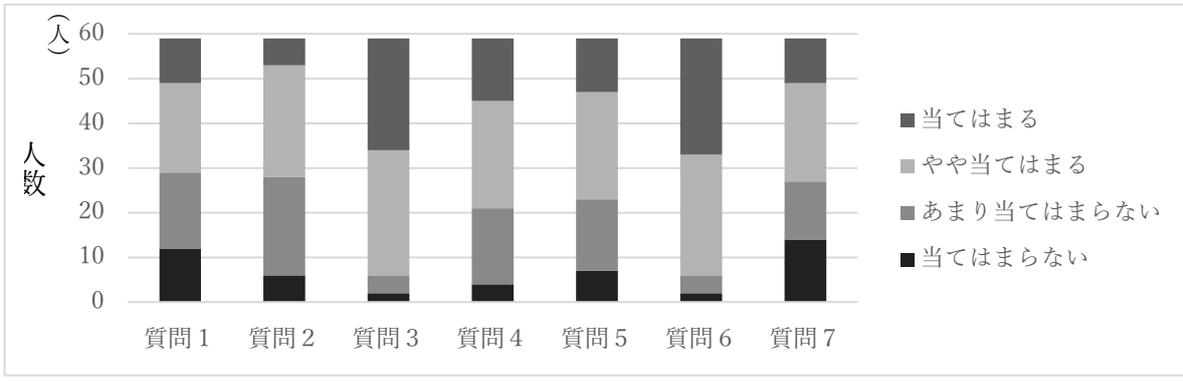
所属校の課題について情報交換し、「学校で取り組んでいる話し合い活動が、社会で行われている多様な意見や価値観を認め合う活動と結び付いていないこと」、「生活上の課題を見だし、その課題の解決に向けた話し合い活動が十分に行えていないため、他者の意見や価値観を受け入れて助け合ったり、協力し合ったりするなど新たな環境の下で人間関係を築こうとする生徒が少ないこと」を各校の共通課題として捉えた。

以上を踏まえ、各校の生徒に事前アンケート（【資料3】）を行ったところ、話し合い活動に対する生徒の意識として、次のような実態を読み取った。

- ・他者の意見は尊重して受け入れるが、自分の考えを伝えることには課題を感じている。
- ・ICT機器を活用し、相手に意見を伝えることに課題を感じている。

### 【資料3】各校の実態調査アンケート【事前】

- 質問1 自分の考えを他の人に話すことは得意ですか。  
 質問2 ICT機器を活用することで、相手に伝えたいことを伝えられますか。  
 質問3 自分の意見を決めることで時に他の人の意見を参考にしますか。  
 質問4 コロナ禍の中でも工夫してクラスの仲間とコミュニケーションをとることができていますか。  
 質問5 対面での話し合い以外のシチュエーションでも他者との関係性を深めることができていますか。  
 質問6 自分と異なる考えの生徒がいても尊重し、認めることができていますか。  
 質問7 発表することで自己肯定感を味わうことはできますか。



## 2 高等学校（研究委員の所属校）における特別活動の課題

生徒の実態や各学校のグランドデザインを踏まえ、次のような課題を3点挙げた。

- (1) 「集団活動が社会の中で果たす役割や意義」と「ホームルーム活動や学校行事における集団活動」とを関連付けて、生徒自身が自分の行動を振り返る取組が必要である。
- (2) 一人一人が多様な意見や価値観をもっていることを踏まえ、様々な課題の解決に向けてよりよい合意形成を図るための、話し合い活動を設定する必要がある。
- (3) 生徒一人一人が他者の意見や価値観を尊重し、互いのよさや可能性を発揮してよく成長し合えるような集団活動を展開する必要がある。

## 3 育成すべき「資質・能力」

実態を把握するアンケートから明らかになった課題を踏まえて、育成すべき「資質・能力」を次のように設定した。

- (1) 集団と個との関係、集団活動が社会の中で果たしている役割や意義、人間としての在り方や生き方との関連付けた集団生活の価値の理解（知識及び技能）
- (2) 自他のよさや可能性を発揮しながら、主体的に集団や社会の問題について理解し、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、それに取り組むことができる力（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったり、新たな環境の下で人間関係を築こうとする態度（学びに向かう力、人間性等）

以上の「資質・能力」及び各学校の育てたい生徒像に基づいた授業改善と学習評価の充実を研究の視点とした。

### Ⅲ 研究の仮説

新型コロナウイルスの影響によりコミュニケーションの機会が減少している。また、社会の情報化により実際に顔を合わせなくても十分な話し合いができるツールが進んできている。そのツールを活用することによって、対面によるコミュニケーションはなくとも、互いの意見を交換し、一つの物事について協働して考え、互いの意見を認め合う中で、自己肯定感を高めることにつながる。また、各校のグランドデザインに基づいた組織的な評価をすることにより、更に生徒が客観的かつ広い視野で活動内容の振り返りができると考えられる。

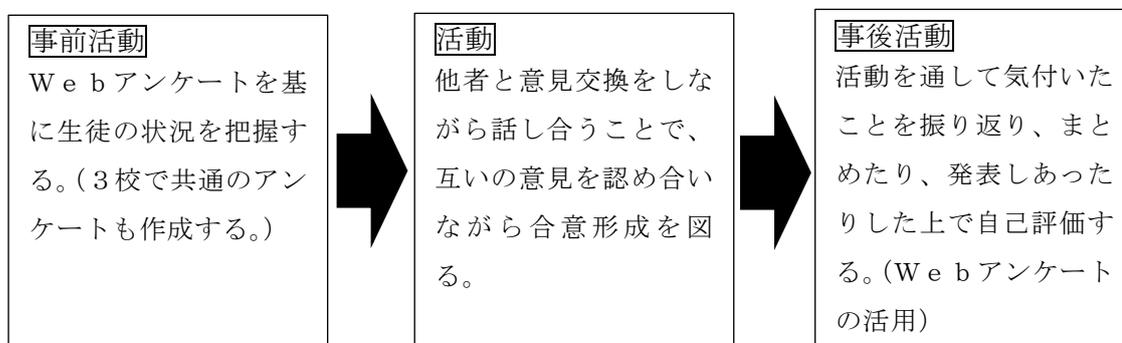
以上の事から、①問題解決に向けて多様なアプローチを用いた合意形成の方法を理解させること、②複数の評価者による各学校のグランドデザインに基づいた学習評価を繰り返すことの2点に取り組むことで、「生徒のこれからの社会を主体的・創造的に生き抜くために必要な資質・能力を育成できる。」という仮説を立てた。

### Ⅳ 研究の方法

#### 1 具体的方策

以下の2点を取り入れて、授業改善と学習評価の充実を図り、成果と課題をまとめる。

- (1) 話し合い活動において、自分の意見を明確にするとともに、他者の意見も記録させ、解決に向けてよりよい方法を検討するように指導する。
- (2) 話し合い活動によって問題の解決に向けた取組をワークシートに記入するとともに、学期ごとや学年末に振り返り用のシートに記入し、教員が示した観点に基づいて自己評価を行う。



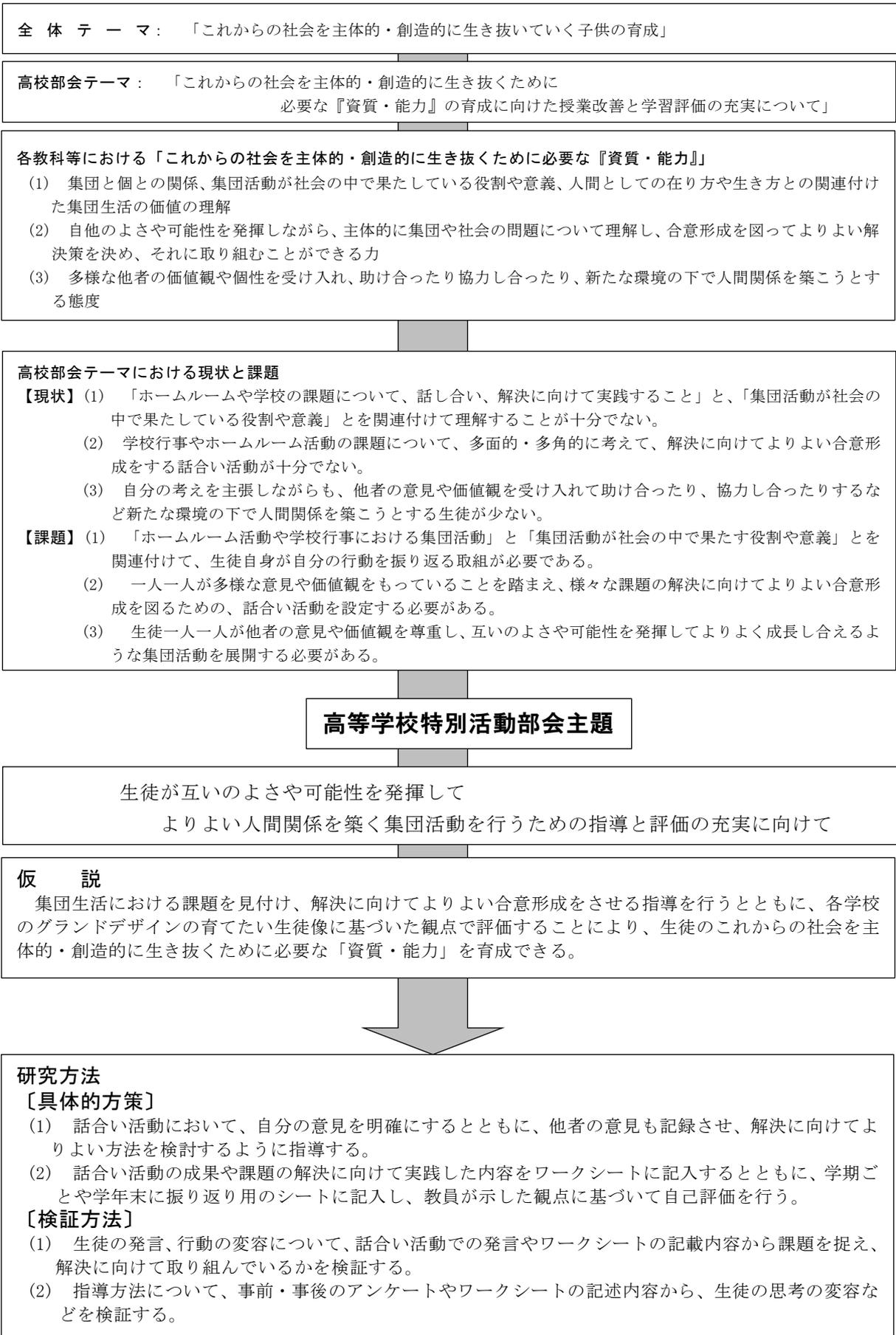
#### 2 検証方法

以下の2点に着眼し検証を行う。

- (1) 話し合い活動での生徒の発言、発表等の授業観察による検証
- (2) ワークシート、事前・事後アンケート、学習支援クラウドサービスの記録から生徒の変容を見取る。

※ 本研究の事前・事後アンケートは全てWebアンケートによって行った。

### 3 研究構想図



## V 研究の内容

### 1 A高校（全日制・普通科）

教科名	特別活動	科目名	ホームルーム活動	学年	第3学年
-----	------	-----	----------	----	------

#### (1) 単元名

ホームルーム活動 (1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画

#### (2) 学校の目標

自由と責任を重んじ、自立の精神に充ちた個性豊かな人間を育成する。

#### (3) 領域の目標

##### ア 知識及び技能

多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようになる。

##### イ 思考力、判断力、表現力等

集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようになる。

##### ウ 学びに向かう力、人間性など

自主的、実践的な集団行動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

#### (4) 単元の目標

##### ア 知識及び技能

ホームルームや学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。

##### イ 思考力、判断力、表現力等

ホームルームや学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。

##### ウ 学びに向かう力、人間性など

生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、ホームルームや学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

#### (5) 単元の評価規準

ア よりよい生活を築くための知識・技能	イ 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	ウ 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
①ホームルームや学校の生活を向上・充実するために、協働して取り組むことの大切さを理解している ②合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	①ホームルームや学校の生活を向上・充実するために諸問題を話し合っ解決することや他者に対して自分の考えを表明し、適切な行動を選択できる。	①ホームルームや学校における生活や人間関係をよりよく形成し、多様な他者と積極的に協働しながら、様々なことに対して挑戦する意思と意欲をもち、日常生活の向上・充実を図ろうとしている。

(6) 単元の指導と評価の計画（2時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
第1時	・文化祭の反省を踏まえ、アフターコロナの文化祭について話し合う。	●		●	自分の意見を持ち、積極的に話し合い、よりよい合意形成を図ろうとしている。(ワークシート)
第2時 (本時)	・前時に話し合った意見を踏まえて、アフターコロナのホームルーム活動について話し合う。		●	●	前時の意見のフィードバックを基に話し合いを改善しようとしている。(観察、アンケート) 自分の意見を持ち、積極的に話し合い、よりよい合意形成を図ろうとしている。(観察、ワークシート、チャット欄)

(7) 本時（全2時間中の2時間目）

ア 本時の目標

(ア) 自他のよさや可能性を発揮しながら、主体的に集団や社会の問題について理解し、合意形成を図ってよりよい解決策を見いだす方法を理解する。

(イ) 今までのホームルーム活動を振り返り、自己の在り方生き方についての自覚を深めさせる。

イ 仮説に基づく本時のねらい

事前に文化祭の振り返りを行わせ、その評価を様々な視点で行うことによって、次の問題解決の機会（ホームルーム活動全体の反省）では、より質の高い合意形成が可能となる。

ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 5分	・前回の話し合い活動を振り返る。【前回の活動の振り返り】 ・事前アンケート「コロナ禍でのホームルーム活動について」を全員で共有する。 【本時の目標の確認】	・前回の振り返りを基に、さらにより話し合い活動ができるように声かけをする。	ウ①日常生活の向上・充実を図ろうとしているか。 (アンケート結果)
展開 40分	・コロナ禍でのホームルーム活動の振り返りについて班で意見交換をする。(良かった点・悪かった点について等)【各班での話し合い活動】 ・アフターコロナでも残すべきホームルーム活動について班で意見交換をする。【各班での話し合い活動】 ・各班がまとめた内容を教室のモニター(学習支援クラウドサービスの活用)で共有し、クラスとして提案する「残すべきホームルーム活動」を3つに絞る。 【全体での話し合い活動】	・委員長が本時の話し合い活動の流れと本時で決めるべきことを全体に伝える。 ・各班で話し合った内容は、チャット欄に記入させ、後で話し合い活動全体が振り返ることができるようにしておく。 ・他者の意見も入れつつ、問題を多面的、多角的に考えているか。	イ①他者に対して自分の考えを表明しているか。 (チャット欄)
まとめ 5分	・本時の話し合い活動をまるごとチャットで共有し(クラスで書記の設定をする。)本時の活動はどうだったのかを自己評価させる。【ワークシートの記入】	・自分たちの班の意見と他の班の意見を比較し、客観的に話し合い活動を自己評価させる。	

(8) 本時の振り返り

ア 学習支援クラウドサービスの活用

本授業実施前にオンラインにて「アフターコロナの文化祭」について話し合い活動を行った。その際には「コロナ禍の文化祭」とその後残すべき活動についてブレイクアウトルームを活用してグループで話し合わせ、学習支援クラウドサービスのチャット欄に各班の意

見を記入させた。チャット欄は残るものなので、本授業の開始の際に、ひとつ前の話合い活動はどうであったのかを振り返ることができ、モチベーションの向上にもつながった。

【資料4】一度で話合い活動を終わらせるのではなく、次につなげていくことで、さらに質の高い合意形成をすることができた。

#### 【資料4】チャット欄の一部抜粋

コロナ禍のホームルームの良かったところ  
 [14:40]  
 ・時間ができた ・普段部活とかで時間が合わない人とかとも交流できた  
 ・友達づくりにいつも以上に積極的になれた  
 [14:41]  
 ・インフルが流行らなかった  
 [14:41]  
 ・オンラインで色々な人の表情がしっかり見えた ・学校に行かなくてよかった  
 ・情報の収集が楽 ・朝のオンラインホームルームのみんなで喋る時間が楽しかった  
 ・先生が面白い企画を考えてくれた ・学校と友達のありがたみがわかる

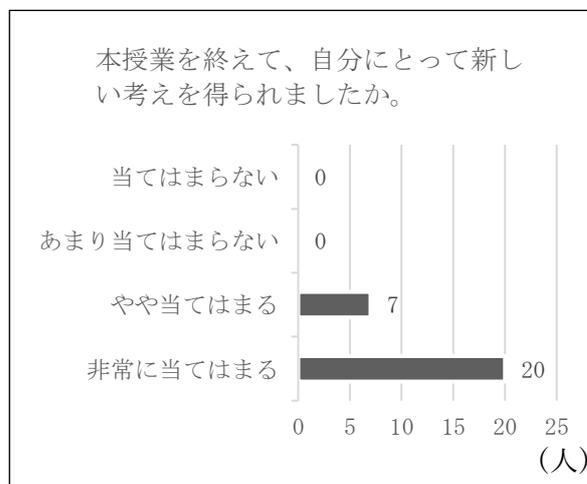
#### イ 段階を踏んだ話合い活動の深化

計画→活動→評価→更に高い段階の活動につなげるために、最終的な目標である「アフターコロナのホームルーム活動」を話し合う前に「アフターコロナの文化祭」についての話合い活動を挟んだ。文化祭を終えて2週間と間もないので、具体的に「後輩に伝えるアドバイス」として生かせる意見がたくさん出た。この活動とワークシートの記入内容に対する教員の評価の二つが、よい事前指導になり、本時の導入も自然にできた。

#### ウ 社会を主体的・創造的に生き抜く能力の向上

本授業を行うまでは、ホームルーム全体の場で自分の考えを他者に表現する機会はあまりなかった。しかし、他者と合意形成を目指し、他の生徒に評価される本授業を経た後の生徒の変容がアンケート結果（【資料5】）にも表れていた。「(以前と比べて)自分にとって新しい考えを得られましたか」の問いに対して27人中20人が「非常に当てはまる」と答え、残りの7人も「やや当てはまる」という肯定的な回答をした。このことは、本授業を通してしっかりと自分の意見を言うことができ、

#### 【資料5】事後アンケート（生徒の変容）



、更には他者の意見の中から「新しい考え」を見だし、自分の糧にしていると捉えることができる。したがって、問題解決に向けて合意形成を目指す過程で、社会を主体的・創造的に生き抜く能力の向上を達成することができた。

## 2 B高校（定時制・普通科）

教科名	特別活動	科目名	生徒会活動	学年	第2、3学年
-----	------	-----	-------	----	--------

(1) 単元名

生徒会活動

(2) 学校の目標

【自立】 自己の自律と自立を図り、自己を生かすことのできる人間を育成する。

【責任】 自己の立場について自覚を深め、自分の役割を全うする実行力のある人間を育成する。

【敬愛】 自他を愛し、自然や生命を慈しむ心を持ち、公共の福祉に貢献できる人間を育成する。

(3) 領域の目標

※A高校と同じため省略

(4) 単元の目標

ア 知識及び技能

生徒会やその中に置かれる委員会などの異年齢により構成される民主的かつ自治的組織における活動の意義について理解するとともに、その活動のために必要なことを理解し行動の仕方を身に付けるようにする。

イ 思考力、判断力、表現力等

生徒会において、学校や地域全体の生活をよりよくするための課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成や意思決定することで、よりよい人間関係を形成することができるようにする。

ウ 学びに向かう力、人間性等

自治的な集団における活動の中で身に付けたことを生かして、自他を尊重し、自らの力で人生を切り拓こうとする態度を養う。

(5) 単元の評価規準

ア よりよい生活を築くための知識・技能	イ 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	ウ 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
①生徒会やその中に置かれる委員会など、異年齢により構成される民主的かつ自治的組織における活動の意義について理解している。 ②よりよい学校・地域・社会づくりに向けて、主体的に参画するための行動の仕方を身に付けている。	①生徒会において、学校や地域全体の生活をよりよくするための課題を見だししている。 ②学校や地域における課題解決のために話し合い、合意形成や意思決定することで、よりよい人間関係を形成している。	①自治的な集団や地域における活動を通して身に付けたことを生かして、自他を尊重し、自らの力で人生を切り拓きようとしている。 ②入学から卒業までという視野で見通しをもったり、振り返ったりしながら、よりよい生活にしようとしている。

(6) 単元の指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	学習の活動	評価の観点			評価規準（評価方法など）
		ア	イ	ウ	
第1時	執行部発足 文化祭テーマ 校内装飾について	●			他者と協力して、検討すべき課題を見付けることができる。 （観察、記述の確認）
第2時 （本時）	文化祭の振り返り		●	●	自分の意見を持ち、積極的に話し合い、よりよい合意形成を図ろうとしている。（観察、記述の確認）
第3時	文化祭ホームページ について			●	前時の意見のフィードバックを基に話し合い活動を改善しようとしている。（観察、記述の確認）

(7) 本時（全3時間中の2時間目）

ア 本時の目標

今年度の文化祭を振り返り、次年度はよりよい文化祭が開催できるように、引き継ぐべき事柄について話し合い、合意形成を図る。

イ 仮説に基づく本時のねらい

事前にオンラインツールを活用することで、一人一人が意見を考える時間を十分に確保し、合意形成を図ることができる話し合い活動を実践する。また、オンラインツールは生徒の活動を生徒同士及び複数の教員で共有しやすいため、振り返りや評価に役立てることができる。

ウ 本時の展開 (40分)

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (方法)
事前	文化祭後の生徒アンケートの結果を踏まえ、各自で今年度の振り返りを行う。	事前にアンケートで回答させる。良い面、悪い面など、複数の視点からの意見を出すように指示する。	イ①文化祭について問題意識をもって、課題を見いだしているか。(アンケートの記述の確認)
導入 10分	・本時の目標の確認。 ・映像を見て文化祭を振り返る。	・今年度の振り返りと、次年度への引継ぎの大切さについて確認する。	
展開 25分	・各グループでホワイトボードを用いて、次年度へ引き継ぐ事項をまとめる。 ・各グループでまとめた意見を代表者が発表する。	・各グループの作業は学習支援クラウドサービス上のホワイトボードでそれぞれの生徒が確認できる。 ・ホワイトボードを全員で共有しながら、引き継ぐ事項とその理由について説明させる。	イ②よりよい文化祭にするために話し合い、合意形成を図っているか。(ホワイトボードの確認、観察) ウ①他者の意見を聞いているか。(観察)
まとめ 5分	本時の振り返りを行う。	ホワイトボードをみながら、話し合い活動の振り返りをアンケートで行わせる。	ウ②次年度の文化祭に向けて見通しをもったり、振り返ったりしながら、よりよい生活にしようとしている。(アンケート)

(8) 本時の振り返り

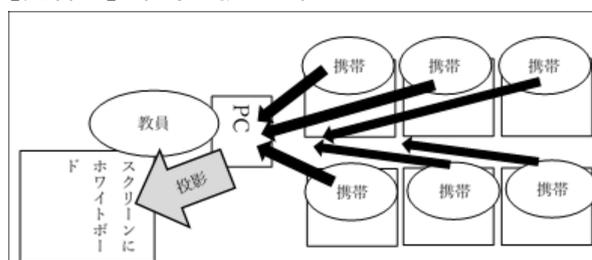
ア ICT機器の活用

本時は基本をグループ活動とするが、各班の活動の際には「口頭のみ」「黒板に記入」を避け、学習支援クラウドサービスのホワイトボードへ記入させた(【資料6】及び【資料7】)。これには二つの目的があり、1点目は「話し合い活動をそのまま残しておき、より客観的な特別活動の評価につなげるため」、2点目は「後に残ることを意識した意見を出させ、話し合い活動後も振り返りができるようにするため」である。さらに、授業後の反省アンケートでは、「学習支援クラウドサービスを利用することで発言したり黒板に書いたりする手間が省け、多くの意見が出て時間もかからないのでその点も良かった」という意見もあり、学習支援クラウドサービスの有効性を確認できた。

【資料6】ホワイトボード

優先度	高い順	理由
悪かったところ	全体的に準備に取り掛かるのが遅かった。	夏休みが始まって本格的にやり始めたから1学期末テスト後からやればよかった。
明るい雰囲気だったけど、放送だったので伝わらなかったのではと思った。		開会式、閉会式 のタイミングが響いて伝わらなかったから。
廊下の清掃をもっと確やしたら、差しい雰囲気になると思いました。		階段清掃やアンブレラス カイも好評だったので全体でも統一感を出したほうが良いから

【資料7】本時の教室配置



イ ポートフォリオと複数教員の評価

事前、事後のアンケートの回答や話し合い活動の内容は全てデジタルノートアプリケーション

ョンで、蓄積させた（【資料8】）。生徒は自分のページを閲覧することで、活動の振り返りができる。また、教員は全ての生徒のページを見ることができるため、生徒会のような異年齢で構成される組織の活動を共有できる。担任は、生徒会活動の実績を含めて評価することができる。補助簿は、デジタルノートアプリケーション上の教員のみが閲覧できるページに作成した（【資料9】）。

【資料8】ポートフォリオ



【資料9】オンライン補助簿

	1年次	2年次	3年次
文化祭をよりよくするために話し合い、合意形成を図っているか	自分たちに解決出来そうな課題を見出そうとしている。	全体を踏まえて文化祭をよりよくしようと課題を見出している。	文化祭をよりよくするための課題を見出し根拠のある意見を述べられている。
評価	○○○	○	

#### ウ 検証授業による成果

本時の前に行ったアンケートの平均回答時間は62分13秒で、最長で325分46秒だった。話し合う内容に対する各自の意見を考える時間を十分にとって一人一人が意見をもった状態を作ったことで、話し合い活動に集中して取り組ませることができた。また、本時の後の振り返りアンケートでは、「臨機応変に対応することや様々な人と協力すること、責任をもってやり遂げることをこれから進学、就職してもしっかりとやっていきたい。」「文化祭実行委員での経験により、自分も周囲の人たちも人間的に成長していることを実感できた。」等の回答が得られた。これらから、検証授業を通して、集団活動が社会の中で果たしている役割や意義、人間としての在り方や生き方との関連付けた集団生活の価値や、自他のよさや可能性を發揮しながら、主体的に集団や社会の問題について理解するという「資質・能力」を育成できたといえる。

### 3 C高校（定時制・総合学科）

教科名	特別活動	科目名	ホームルーム活動	学年	第3年次
-----	------	-----	----------	----	------

(1) 単元名

ホームルーム活動 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

(2) 学校の目標

【自主】自ら学び考え、行動する人間を育てる。

【創造】個性と創造力の豊かな人間を育てる。

【探求】自己の在り方生き方を探求する人間を育てる。

【開拓】自らの人生を開拓する人間を育てる。

【貢献】産業社会や地域に貢献する人間を育てる。

(3) 領域の目標

※「1 A高校と同じ」

(4) 単元の目標

ア 知識及び技能

社会の中で自信をもって活動し、自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義や現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能を身に付けるようにする。

イ 思考力、判断力、表現力等

現在の自己の学習と将来の生き方や進路について、周囲と関わりながら自分を見つめ直し、課題を見だし、主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描くとともに自らの意思と責任で進路の選択決定ができるようにする。

ウ 学びに向かう力、人間性等

将来の生き方を描き、現在の生活や学習の在り方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとする態度を養う。

(5) 単元の評価規準

ア よりよい生活を築くための知識・技能	イ 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	ウ 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
①社会の中で自信をもって活動し、自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことの意義を理解している。 ②現在の学習と将来の社会・職業生活とのつながりを考えるために、必要な知識及び技能を身に付けている。	①自己の学習に関する課題、及び将来の在り方生き方や進路について周囲と関わりながら自分を見つめ直し、課題を見いだしている。 ②主体的に学習に取り組み、自己の将来について、適切な情報を収集して考え、合意形成を図り、意思決定して実践している。	①将来の生き方を描き、周囲と関わりながら自分を見つめ直し、現在の生活や学習の在り方を振り返り、変化しようとしている。 ②社会の中で自信をもって活動することを意識し、社会的・職業的自立に向けて、現在及び将来の生活を改善しようとしている。

(6) 単元の指導と評価の計画（2時間扱い）

時間	学習の活動	評価の観点			評価規準（評価方法など）
		ア	イ	ウ	
第1時	各学校行事に向けての意気込み	●			学校行事・事前アンケートにより、自己の役割の課題を見い込んでいる。（「キャリア・パスポート」入力状況、観察）
第2時（本時）	各学校行事の振り返り		●	●	各学校行事の際に記入した事後アンケートの内容を他者と共有し、意見交換をしながら振り返りを実践している。（「キャリア・パスポート」入力状況、班の話し合い活動や発表ワークシート、他の教員の補助簿）

(7) 本時（全2時間中の2時間目）

ア 本時の目標

(ア) 各学校行事の実践を通して、他者と協力した集団活動を振り返ることで、自己の役割や意義を理解する。

(イ) 各学校行事、事後の振り返りについて、役割が与えられた中で、他者と話し合い、よりよい合意形成を図る。

(ウ) 話し合い活動で共有化された班の発表から、現在及び将来の生活を改善するための解決方法を意思決定する。

イ 仮説に基づく本時のねらい

事前に「キャリア・パスポート」の入力を行い、自己の役割から課題を発見する。各学校行事の事前準備と当日参加を他者と協力して課題解決に向けて実践し、参画から自己肯定感を味わう。各学校行事後は、他者と話し合い活動を行うことで自己を振り返り、現在及び将来の生活を改善するための解決方法を意思決定できる。

#### ウ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入 3分	<b>【本時の目標の確認】</b> <b>【各学校行事を振り返る】</b> ・各学校行事の取り組み写真を見て状況を振り返る。	・各学校行事において、自分の役割を明確に理解させる。 ・写真を見せることで、自身の活動を振り返る。	
展開 40分	<b>【個人による活動】</b> ・個人は「キャリア・パスポート」の各学校行事(事後)に入力する。 <b>【班による話し合い活動】</b> ・各班で話し合い、意見交換する。 <b>【役割活動】</b> ・各班の意見を、ワークシートにまとめる。 <b>【発表会】</b> ・各班の意見を発表する。	・スマートフォンがない生徒へワークシート配布し授業参加への配慮をする。 ・個人で各学校行事の気持ちを振り返らせる。 ・各班で各学校行事を思い出し、他者の意見を受け入れる体制作りができているか机間指導する。 ・班の合意形成が確認できるようにワークシートに記入を促す。 ・発表者の姿勢に対して、聞く側の姿勢が整っているのか確認する。	ウ-①(観察・ワークシート)スライドを見て、周囲と関わりながら自分を見つめ直し、振り返り、変化しようとしている。 イ-②(観察・ワークシート)主体的に学習に取り組み、自己の将来について、適切な情報を収集して考え、合意形成を図り、意思決定して実践している。
まとめ 2分	<b>【個人による活動】</b> ・各班の発表を見て、どう思ったのか事後アンケートに入力する。	・他者の意見を聞いて、自分を再確認することを伝える。	ウ-②(アンケート・他の教員による評価)社会の中で自信をもって活動し、現在及び将来の生活を改善しようとしている。

#### (8) 本時の振り返り

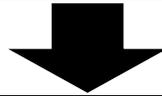
対象年次の多くの生徒は、検証授業の段階において、自己肯定感が低く、昨年まで自分の将来像を描くことに意欲や関心をもてずにいた。そのような観点から、自己表現の仕方や他者への関わり方を、学校行事を通し具体的に組みこませることにした。社会の中で自信をもって活動し、社会的・職業的自立に向けて、現在及び将来の生活を改善して、自己実現を図ることができる取り組みを考えた。

#### ア BYODを利用した「キャリア・パスポート」の活用

生徒一人一人のスマートフォンから学習支援クラウドサービスを利用して、学校行事の事前と事後に「キャリア・パスポート」への入力を実践した。(【資料10】及び【資料11】)生徒たちの自己肯定感を高めるために、事前に自分を見つめ直す取り組みが重要であると考えた。結果、事前より事後の方が具体的な活動名や自身の行動についての内容が明記されていた。また、事後の「キャリア・パスポート」では、将来の社会に向けて必要な知識・技術や身に付けたい力等が多く生徒から入力されていた。自分の所持しているスマートフォンから容易に、必要に応じて自己を振り返ることができるため、多くの生徒たちからは好評であった。今後は、全ての生徒が一人1台の学習者用端末を所有するため、更なるオンラインの活用が見込まれる。「キャリア・パスポート」に入力することで、明確に自己を見直すことができ、生徒の自信につながった。今後は、より一層自己肯定感を味わえる活用方法を見いだしたい。

【資料10】 「キャリア・パスポート」 学校行事の記載内容【事前】

生徒	各行事で特に心がけて取り組もうと思っていること	そう思った理由は何ですか？	そのために事前に準備することは何ですか？
A	楽しむこと	普段楽しめていないから	どんな意見でも耳を傾ける
B	楽しく思い出にのこる行事にする	定時に転入してきてまだ行事をしたことが無いから今年こそはみんなと楽しい思い出を作りたいと思ったから。	みんなと協力すること、声をかけあうこと、笑顔で楽しむこと
C	みんな協力して	団体の活動だから	目標を決める
D	みんなと楽しみ為に何気ない会話とかも大事にする	最後の行事ごとだから思い出になるように	計画を立てる
E	コロナ対策を万全にして取り組むこと。	都内に行く、三密になる所だから。	ない
F	本気で取り組む	それぞれ軽音の演奏、副団長・選抜のリレーなど大事な役を任されているため。	家で自主練をする、よく寝て体力を備える



【資料11】 「キャリア・パスポート」 学校行事の記載内容【事後】

生徒	各行事で自分なりに取り組めたことは何ですか？	そう思った理由は何ですか？	今回の体験・経験で自分が最も心に残っていることはどんなことですか？
A	声をなるべくかけるようにした	なるべく声をかけて雰囲気良くしようとした	みんなの笑顔が見られたこと。
B	遠足で班のみんなと楽しく話しながら行動する、体育祭で委員会の仕事を最後までやる	チームワークを深めるため、楽しく思い出をつくるため、委員会の自分の仕事をしっかりするため	遠足で班のみんなとたくさん写真を撮り思い出を作れたこと。
C	最後の一年だから、みんなと一緒に遊びました、とても楽しかった	みんなと一緒に遊びは初めても最後だから	友達と一緒に道を探すこと
D	文化祭では手紙の飾り付けをすることができました。体育祭では委員会の仕事と両立していくつかの競技に参加することができました。遠足では友達と共に安全に楽しむことができました		友達と過ごした時間です。
E	体育	クラスで団結できた	遠足
F	なにか肩書きのある役職ではなかったけど、行事が円滑に進むように裏で支えた。	班長や〇〇長などではなかったけど、まとめ役をしていたと思うから。	軽音部の演奏

イ 学校全体の教員による評価方法

社会の中で自信をもって活動できる資質・能力を育成するため、他の年次の担任も含めた学校全体で評価する体制を作った。グランドデザインに基づいた評価規準で評価を行い、自己肯定感を高めるように生徒に働きかけた。話し合い活動では、自己の役割を理解させ、他者と協力して班でよりよい合意形成を図らせる取組を行い、生徒の発言やワークシートの記載内容（【資料12】）から班の課題解決の過程を見取った。

【資料12】 「キャリア・パスポート」 班発表用・学校行事【事後】

A 班の例

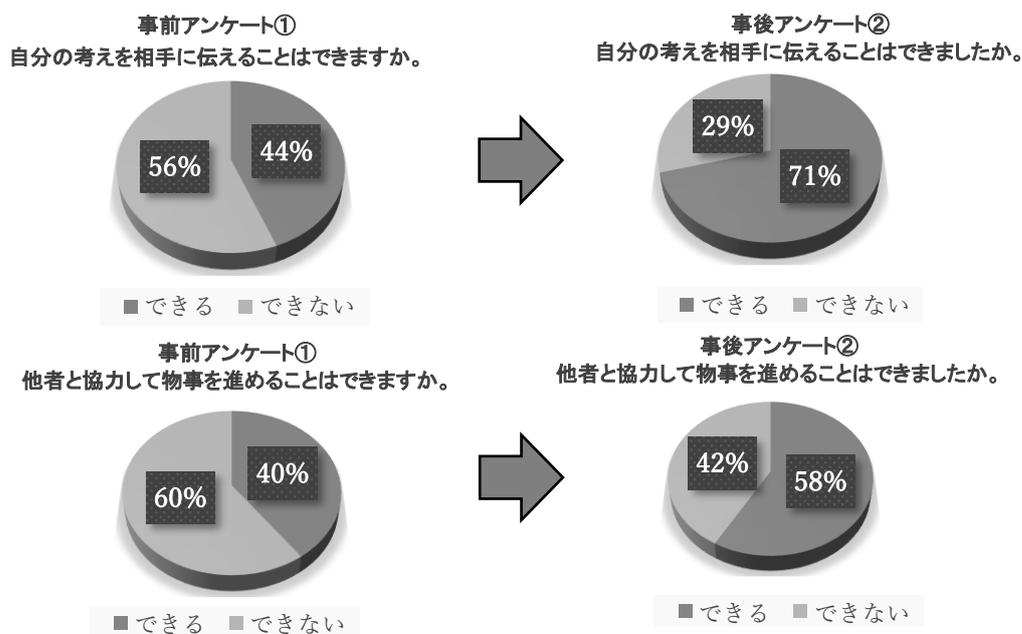
- 1 学校行事（文化祭・体育祭・遠足）で自分なりに取り組めたこと、よかったと思うこと  
チームワークを意識したコミュニケーションを心掛けた。
- 2 今回の体験・経験で最も心に残っていること  
言語の違いにより、お互い何を考えているのかわからず意見を伝えにくい時があった。
- 3 2の理由  
言語の違いがあった中でも、細かな連絡をすることで、当日過ごすことができたから。
- 4 学校行事（文化祭・体育祭・遠足）を通して、自分が成長したと思うところ  
普段一緒に過ごすことのできない仲間との対話が増えたこと。
- 5 今回の実体験・経験を踏まえて、今後に生かすこと（社会で生かすこと）  
コミュニケーション能力

## B班の例

- 1 学校行事（文化祭・体育祭・遠足）で自分なりに取り組めたこと、よかったと思うこと  
行事が円滑に進むように裏で支えた。
- 2 今回の体験・経験で最も心に残っていること  
みんなで一緒に動きができるように声をかけあった。
- 3 2の理由  
みんなで一緒に行事を成功させるため。
- 4 学校行事（文化祭・体育祭・遠足）を通して、自分が成長したと思うところ  
時間にルーズなので、時間のコントロールができたこと。
- 5 今回の実体験・経験を踏まえて、今後に生かすこと（社会で生かすこと）  
タイムマネジメント能力

ウ 社会の中で自信をもって活動し、主体的・創造的に生き抜くための資質・能力の向上  
グランドデザインに基づき、生徒がこれからの社会を主体的・創造的に生き抜くために必要な資質・能力を育成するためには、学校行事という集団生活を通して、自己の課題を見付け、他者とよりよい合意形成をするための方法や指導を行う必要があります、自己の表現の仕方や他者への関わり方の観点から、25人の生徒を対象にアンケート形式で事前と事後の意識調査を行った。（【資料13】）

### 【資料13】 主体的・創造的に生き抜くために必要な資質・能力に関する意識調査



検証授業のアンケート①自己表現に関する項目では、事前が「できる」44%に対し、事後が71%で27%の向上につながった。アンケート②他者への関わり方に関するアンケート項目では事前が「できる」40%に対し、事後が58%で18%の向上を得ることができた。

具体的な生徒の声は、生徒A「学校行事に参加することで自分の意見を相手に伝える機会が増えた」、また、生徒B「みんなと協力して物事を進めるためには積極性や相手の意見を受容する大切さを知った」と回答があり、自己肯定感が高まっていることを見取ることができた。

この検証授業から、本校生徒が、社会の中で自信をもって活動し、社会的・職業的自立に向けて、現在及び将来の生活を改善して、主体的・創造的に生き抜くための資質・能力の向上ができると、実証された。

## VI 研究の成果

本研究における各校の検証授業により得られた各校の共通成果は、以下のとおりである。

### 1 多様なアプローチを用いた合意形成の方法

教員が生徒のよりよい人間関係を築く集団活動を行うための指導と評価を行い、生徒の発言、行動の変容について、学習支援クラウドサービスやアンケート等を活用し、記録を残すとともに、振り返りをさせることによって自己の課題を見付けることができた。課題を解決するためによりよい合意形成をする話し合い活動において、自分の意見を明確にするとともに、他者の意見を受容し、その中から相互に新しい考えを見だし、課題解決に向けたワークシートの活用や発表を展開することができた。B高校の授業後のアンケートに「臨機応変に対応することや色んな人と協力すること、責任をもってやり遂げることをこれから進学、就職してもしっかりやっていきたい。」という回答があったように、集団活動を通して学んだことを振り返ることにより、一人一人の自己有用感や自己肯定感を高めることができ、集団生活における自己の将来の在り方生き方を見つめ直すことにつながり、更なる新しい課題を導き出す場面まで繋げることができた。

### 2 各学校のグランドデザインに基づいた学習評価

各学校のグランドデザインに基づき、評価の観点を選定したことにより、共通理解を図って生徒たちのよさや可能性を多面的、総合的に評価できるようになった。評価を通じて、教員が自己の指導の内容や方法、指導過程等を振り返り、より効果的な指導が行えるような工夫改善を図ることもできた。

各校共通して、文部科学省高等学校学習指導要領（平成30年告示）特別活動編第3章各活動・学校行事の目標と内容の中にある、学習過程「①問題の発見・確認」「②解決方法の話し合い」「③解決方法の決定」「④決めたことの実践」「⑤振り返り」「⑥次の課題解決へ」までを施行することができた。

## VII 今後の課題

本研究における検証授業により得られた課題は、以下のとおりである。

本研究の検証から得られた課題としては、Ⅲ 研究仮説で示した、生徒が主体的で自己肯定感を味わえる集団活動を実践するために必要なICT機器やオンライン環境を補助的に活用することで、いつの時代においても高度な話し合い活動が継続できるのではないかという部分である。ICT機器の活用において、生徒からの多くの肯定的な回答を予測していたが、結果は十分に得られなかった。今後求められる動きは、日頃からネットワークの動作環境や操作方法の円滑化などにおける、校内外の研修等で、新しい情報や技術を共有・普及させて、教員と生徒間の日常化したICT機器活用の機会を増やすことである。また、生徒がより一層、これからの社会を主体的・創造的に生き抜くためには、生徒が互いのよさや可能性を発揮して、よりよい人間関係を築き、集団活動において課題を見だし、解決に向けて合意形成をすることは特別活動においては要である。他者と協力して、話し合い活動をすることにより、自己を振り返る機会ができ、他者の良さや可能性を発揮できる集団活動を実践することができた。本検証授業からは、各校が、継続的な授業展開をしていく必要があると考える。

## 令和3年度 教育研究員名簿

### 高等学校・特別活動

学 校 名	職 名	氏 名
東京都立北園高等学校	主任教諭	根岸良和
東京都立青梅総合高等学校	教 諭	◎古川 薫
東京都立砂川高等学校	教 諭	釜崎 綾乃

◎ 世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部高等学校教育指導課

指導主事 小林 一人

令和3年度  
教育研究員研究報告書  
高等学校・特別活動

令和4年3月

編集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849